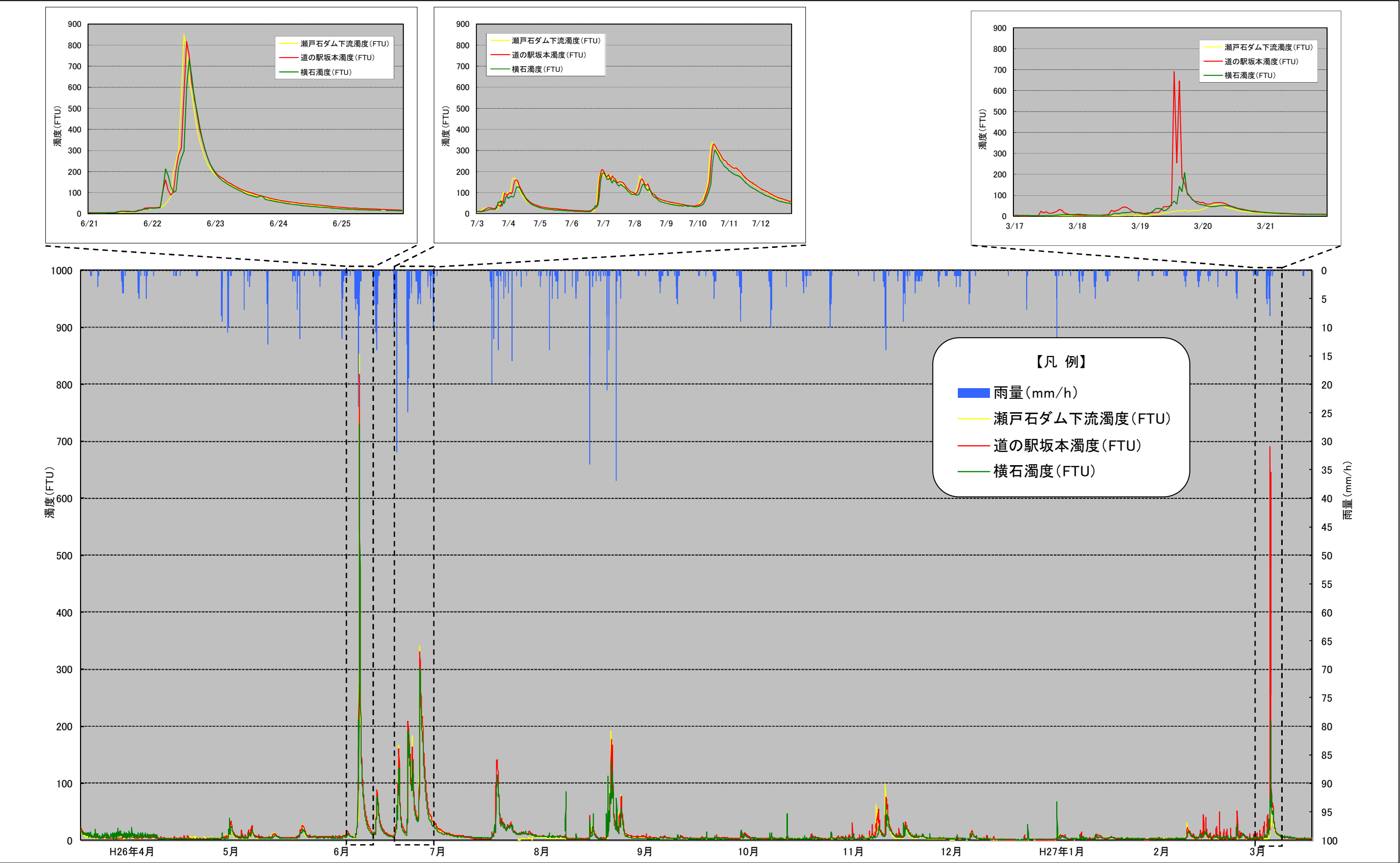


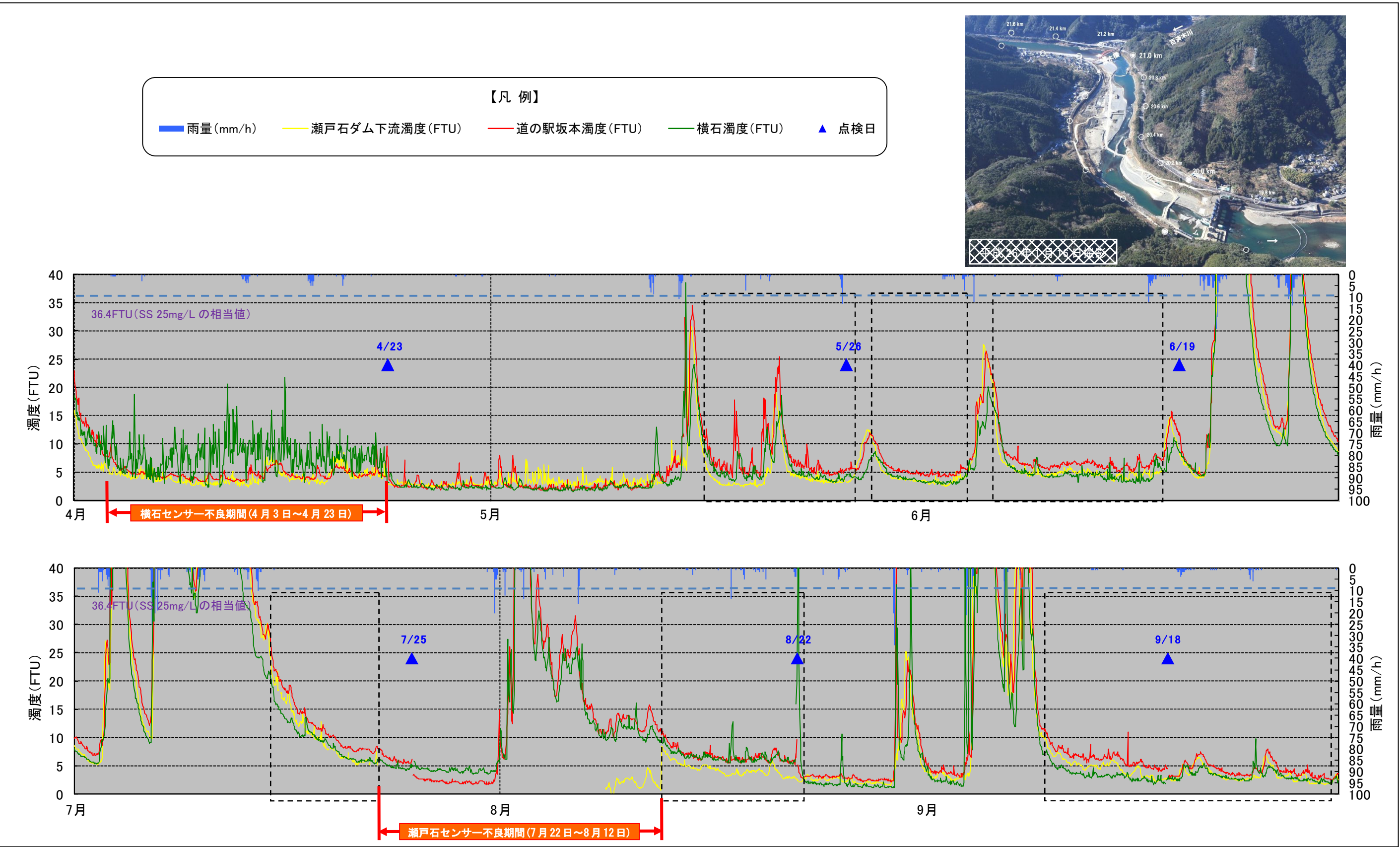
6) 水質（常時観測：出水時）

評価項目	視点	平成 26 年度の調査結果概要	評価概要
平成 26 年度の出水時濁度の状況	出水時の濁度の時間変化(自動観測)	・6～9 月の出水時の瀬戸石ダム下流（荒瀬ダム上流）と道の駅坂本（荒瀬ダム直下流）と横石の濁度の関係に着目し整理したが、<u>同じような挙動を示している</u>。 ・3 月末に道の駅坂本で一時的に 100FTU(最大値 691FTU)を超過したが、瀬戸石ダム下流のレベルまで急激に減少した。	・<u>ダム貯水池の堆積土砂の影響（ダム下流の濁り）は特に見られなかった</u>と考えられる。

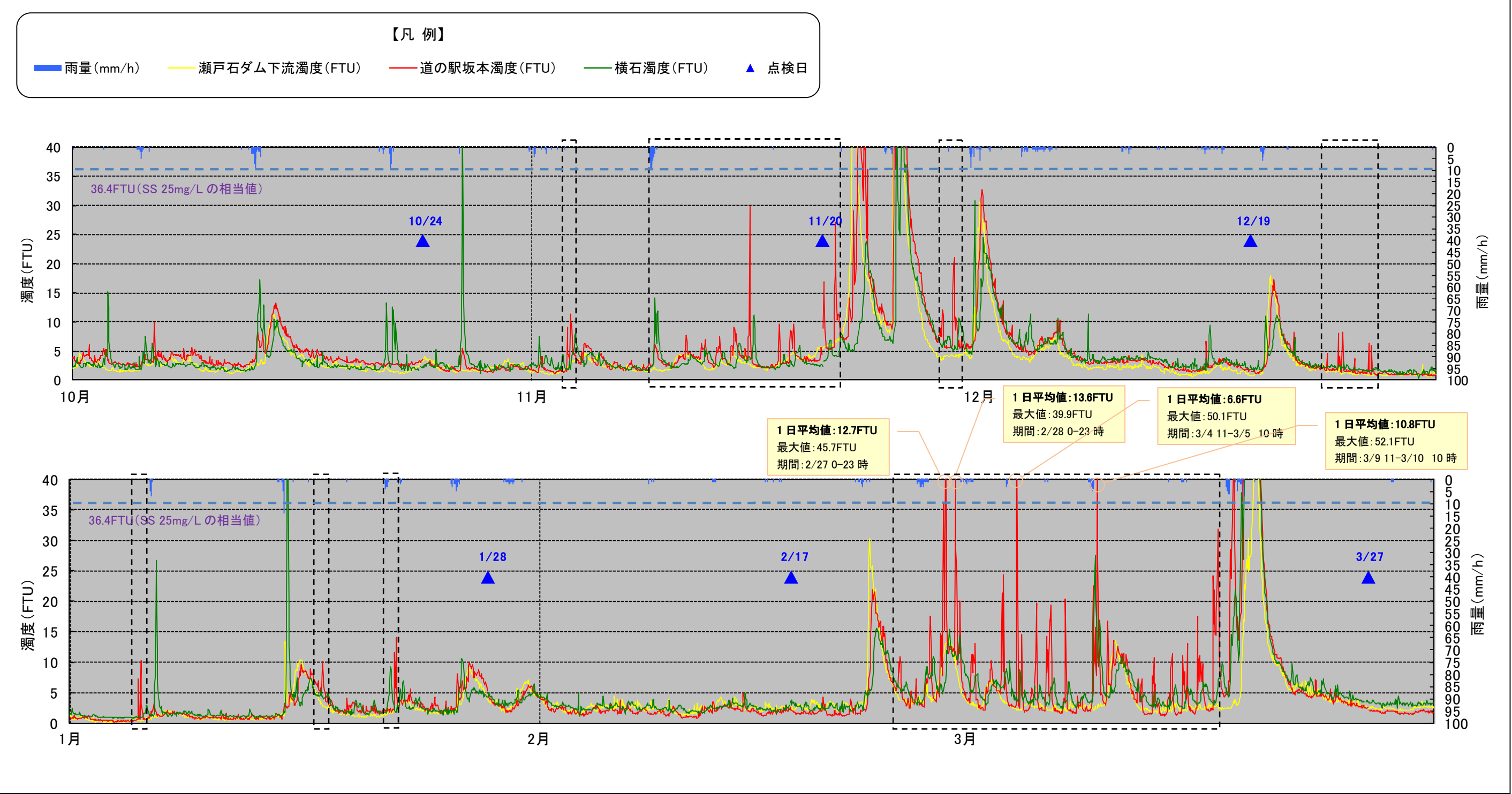


6) 水質（常時観測：平水時）

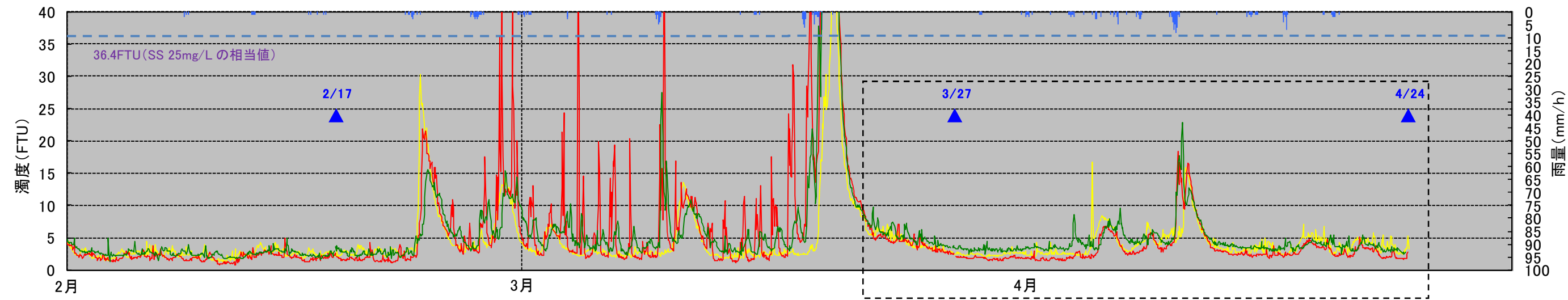
評価項目	視点	平成 26 年度前期 (4～9 月) の調査結果概要	評価概要
平成 26 年度の平水時濁度の状況	平水時の濁度の時間変化 (自動観測)	・ 出水後、瀬戸石ダム下流より道の駅坂本の方が 2～3FTU ほど高い期間があった（下図の破線枠内）。	・ 前年の非出水期のダム直上流における土砂（砂礫、泥土）処理等の影響で、出水後に高くなっている期間があるが、低い濁度であり、ダム下流の環境に対して大きな影響はなかったと思われる。



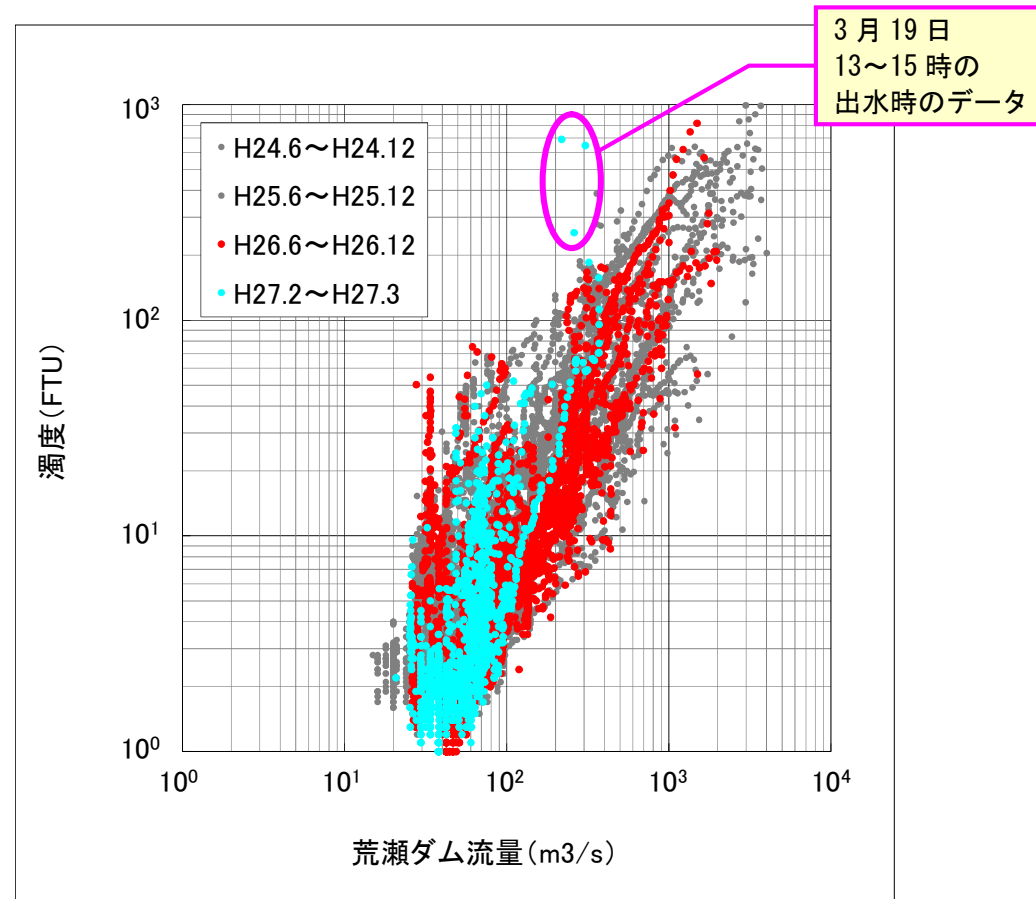
評価項目	視点	平成 26 年度後期(10～3 月)の調査結果概要	評価概要
平成 26 年度の平水時濁度の状況	平水時の濁度の時間変化 (自動観測)	11～3 月中旬において、瀬戸石ダム下流より道の駅坂本の方が突発的に高い時期が断続的に発生した(下図の破線枠内)。 - 特に 2 月下旬～3 月上旬には、一時的ではあるが、36.4FTU を超過する時期が 4 回発生した。しかし、1 日平均値は 36.4FTU を下回り(6.6～13.6 FTU)、濁水が長期化することはない。	- みお筋部撤去工事や荒瀬ダム直上流の土砂除去工事等の影響で高くなっている期間があるが、<u>殆どは低い濁度(SS25mg/L の濁度換算値は 36.4FTU)であり、荒瀬ダム下流の環境に対して大きな影響はなかったと思われる。</u> <u>36.4FTU を超過する時期もあったが、4 回程度で一時的なものであり、荒瀬ダム下流の環境に対して大きな影響はなかったと思われる。</u>



評価項目	視点	平成 27 年 3 月下旬～4 月の調査結果概要
平成 27 年 4 月の平水時濁度の状況	平水時の濁度の時間変化 (自動観測)	3 月 19 日の出水以降は、瀬戸石ダム下流より道の駅坂本の方が低く、安定的に推移している（下図の破線枠内）。



流量（荒瀬ダム放流量）と濁度（FTU）の関係図



流量（荒瀬ダム放流量）とSS^注負荷量の関係図

